

平成26年度第8回旭市道の駅建設準備委員会 会議録

日 時：平成26年11月21日（金）午後3時30分
場 所：市役所3階委員会室
事務局：企画政策課
外部アドバイザー：(株)船井総合研究所

1. 開会

欠席（遠藤委員、平野(陽)委員、土屋委員、宇畑委員、椎名委員、菅生委員、大塚委員）報告

2. あいさつ

委員長：大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

11月9日の産業まつりでは何名かの出荷者の方が出店しましたので本日報告があるかと思えます。短い時間の中、議題が多くなっていますが慎重審議をお願いいたします。

3. 議題【道の駅運営に向けた検討項目】

※事務局より報告

- ・第3回発起人会専門部会の検討内容について報告

(1) 出荷者協議会の設置について

※事務局より説明

- ・説明会の状況及び今後の予定について説明

→現在の農畜水産物申込み人数は135名である。野菜類、米類、果樹類等の種類別の延べ人数は165名である。

一般加工品等の申込み人数は89名である。農産物等加工品、菓子、手工芸品等の種類別延べ件数は102名である。全体の実質申込人数は205名となっている。

11月5日の出荷者協議会説明会では142名の参加があり、全体の約70%の参加であった。

11月9日の産業まつりでは出店に7名の参加があり、11品目を売り約4万円の売上となった。また、ネーミングの募集も実施した。

11月26日、27日の二日間で出荷者協議会専門部会を開催し、各専門部会の役員を選任する。12月17日には出荷者協議会設立総会を開催する。

各委員からの意見

委員：出荷者協議会のいくつかの専門部会は農水産課で事務局を持つとのことだが、今回の専門部会をどのように進めるのか確認をしたい。

アドバイザー：現段階では役員を決めて、道の駅全体の今後の道筋について説明をする必要がある。出荷者の規程等について、ある程度決まっていることもあるので、その辺は再度話をしておく必要がある。建物が完成してくるまでは実感が湧かないと思うので、より具体的な説明はそれからになる。

委員：部会の役員は野菜等の出荷調整をする会社側とどのように関わってくるのか。

アドバイザー：直売所によって、協議会との関わり方が違うが、基本的には運営会社がしっかり協議会をコントロールしていくことになるので、部会長は両者の伝達をしたり部会をまとめていく程度だと思う。数量の調整等の具体的なことについては、運営会社がやることになる。

事務局：まずは役員を決めてもらい、連絡体系をつくりたい。実際本格的に動き出すのは会社設立後になると思う。

委員：道の駅はJAとはちがい同じ規格の野菜を出荷する必要がなく、生産調整は非常に大変だと思う。部会の役員にあまり負担をかけないようにした方が良い。

アドバイザー：そのとおりだと思う。細かい調整をするのは道の駅である。

委員：例えば品目によっては15件の出荷者がいるが、全員が一斉に出荷してきたらどうするのか。

アドバイザー：とにかく並べていくしかない。

委員：道の駅の社員が入るのは開業の3ヶ月くらい前ではないのか。それまでは協議会が調整する部分がでてくるのではないのか。

アドバイザー：出荷者のテストマーケティングのような活動を何度か重ねて訓練していくことになる。

委員：テストマーケティング等の調整は各部会でしていくことになるのか。

アドバイザー：部会長にすべてを任せるのは経験もなく厳しいので、市の職員等が関わっていくことになる。

事務局：確かに会社も設立されておらず、何を示してよいのかわからない部分もあると思う。組織を作ることによって様々な情報を提供し共有することができ意見も聞ける。それも目的の一つである。今後、販売スペースの詳細等の具体的なものを出していきたい。

委員長：これだけの出荷者が集まるということは、皆さんの期待も大きいと思う。出荷者数が多い同品目は競争となり、品質と価格の差になってくる。部会長が、あなたはこれを出荷しなさいといった調整は出来る訳がない。部会は出荷の規程を知らせたりする連絡機関である。最初から部会で生産調整をするべきではない。あまり厳しくせず、まずは自由にやってみて、慣れてくれば少しずつ調整できれば良い。出資者である農協の話も参考にしてもらいたい。

委員：部会長の役割は、部会のまとめ役くらいにしておかないと重荷になってしまう。

(2) 販売計画等について

※アドバイザーより説明

・物販施設の販売計画等について

→売上計画について、現在の計画では、部門別でかなりの差があるため、全ての部門で売上が伸びるよう調整をした。

また、農産物の必要出荷者数にも修正した数字で表している。野菜はおおよそ目標数値に足りているが、茸類、根菜類が足りていない。果物については梨やスイカ等の品目で出荷者数が足りておらず対策が必要である。

各委員からの意見

委員長：姉妹都市の茅野市が産業まつりの時に来ていたが、特産品のリンゴの販売については、輸送方法が問題になるようである。JAの力を借りることも出来ると思う。

アドバイザー：今後は、市内の出荷者が大きく増えることはないと思うので、J Aと個別に協議をしていきたい。

委員長：売上計画だが、平成27年度は実際には約半年の営業になるので、1年間の売上ではなく実際の決算月に合ったものにしてもらいたい。

(3) ユーザーズクラブの設置(案)について

※アドバイザーより説明

・設置案の検討について

→消費者の代表となるユーザーズクラブを会社が設立される時期を目途に設置を検討する。ユーザーズクラブの役割や目的等を整備して設置の準備を進める。

各委員からの意見

委員長：設置の時期はいつくらいにするのか。オープン時にはボランティアとして手伝ってもらえるのか。

アドバイザー：会社が設立された後の6月くらいに設置するのが良いのではないかと。オープン時には手伝ってもらえるのが良いと思う。

委員：募集期間は半月から一月くらい設けてもらいたい。設置要領については前回の案と比べると、良くなっていると思う。親しみやすく応募がしやすい内容になっていると感じる。

委員長：会社が設立されたらすぐにホームページを立ち上げてもらいたい。会社設立後はすぐに従業員を雇うのか。

アドバイザー：道の駅の営業に関するホームページは実際には3ヶ月くらい前の立上げで間に合うと思う。準備はしておいた方が良い。それまでは市のホームページで情報を流すことも出来る。従業員については、当初は駅長のみの採用で、他の従業員の採用は開業の3ヶ月前くらいからになると思う。市役所の事務局は出来れば道の駅準備室のような組織になった方が良い。

委員：ユーザーズクラブ会員の男女別や年代の比率についての内訳の考えはあるか。

アドバイザー：細かい人数比率については定めていないが、全体人数は意見を集約する意味でも20名から30名程度が適度だと思う。

事務局：ホームページで検索しても、似たような他の事例は見当たらないので先進的なものになると思う。

(4) 道の駅のネーミング選考について

※事務局より説明

・選考方法と選考スケジュールについて説明

→建設準備委員会で1次審査を実施し、2次審査は建設準備委員に市長、副市長を含めて実施する。

(5) その他について

※事務局より説明

・テナントの募集状況について説明

・太陽光発電設備について説明

→太陽光発電について、昨年度の整備検討時の費用見込は1キロワットあたり60万円程度の試算であったが、実施設計結果としては約75万円となり試算時の整備単価を上回った。設計の結果について、設計内容や国・県等の公共整備における他の事例を精査等行ったが、国土交通省積算基準の準拠や品格法に基づく適正価格設定、国標準仕様書に基づき公共発注として適正な価格算出であった。前回、前々回の委員会でも報告したが、固定価格買取制度の状況変化もあり、太陽光発電の売電収入で整備費用を回収するのは不可能な状況である。今一度、意見を伺いたい。

各委員からの意見

委員：設置費用が高いから整備が難しいというのは解っているが、将来やっぱり設置しておけばよかったと考えるかもしれない。環境面から考えて子供に教育できる面もあると思う。設置について諦めてはいるが、残念な気持ちもある。

委員：費用的に厳しいとなると、諦めざるを得ないと思う。

委員長：設計会社は最終的に60万円という見積を出したが、実際は下請会社が算出している。実際には45万円の見積であったが3割増して60万円で旭市に出している。その金額に公共事業の算定基準による必要経費を上乗せして設計額が77万円となっている。これでは、売電収入での設備費用回収は不可能であり、利益を求める会社にはそぐわない。防災機能の役割から、道の駅は自家発電が備えられ、水も使える。費用対効果の問題である。例えば60万円くらいで設置工事が落札されるなら、検討の余地もあるが、現在の設計額は議会でも高過ぎるという話になっている。既に電力が足りていることから、国内では買取を中断している電力会社もある。民主党政権は最初から電力買取の制度設計を間違っていた。現在の内閣は、来年度から電気の買取価格を半年に一回下げるという方向である。1キロワットあたりの売電価格が20円台になってくるので、高い整備費で設置しても、何のために整備しているのかという話になる。委員の皆様にはそういった厳しい現状であることをご了承いただきたい。

閉会 17:05